2．9．2014

ODAKITA SPORTS-CULTURE 9月

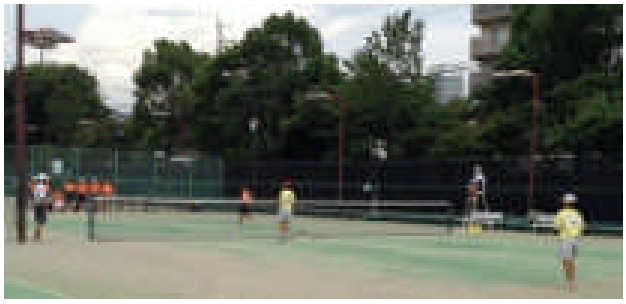
ODAKITA J.H.S CLUB TIMES 5

文責：学校長

■最後の夏：ソフトテニス・男子卓球・陸上、県大会出場 ―各部とも新チームへ―

今年の７月：阪神大会及び県大会の結果をお知らせします。これまで困難に耐え、努力し続けた自分に自信と誇りをもって、今後の学校生活や様々な活動に積極的に取り組めることがクラブ活動の目的でもあります。３年生は気持ちを切り替えて次の目標・進路に向けてスタートを切りましょう。また、保護者の皆様や地域の方々におきましては、日頃よりクラブ活動への温かいご協力をいただきありがとうございます。これからもご声援・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

ソフトテニス部 塚口に苦杯ながらも県大会へ



阪神大会団体→準優勝　小田北×―〇塚口中

新チームより、市内大会から塚口中の塚口の壁があった。決勝では塚口に敗れたものの中村有さんが復帰し、県大会出場の原動力となった。（木ノ下先生・釣谷コーチ談）

個人　土田・佐田組(ベスト８)→県大会出場

県大会は、姫路・西播が強く、１回戦で広畑中（姫路）に２－１で惜敗し、３年生は現役を終えた。しかし、その後の夏休みも練習に参加している３年生の姿が良く見られる、小田北のテニスコートです。

男子卓球部 “王国復活か！？” 阪神大会団体　準優勝→県大会出場しました。

市内大会では小園・若草に次ぐ３位で阪神大会に進んだが、阪神大会では、準優勝と奮起した。その原動力は、市内大会での結果を糧に３年生が頑張ったことに尽きるとのこと。（末・増田先生談）

県大会では、１回戦は、三木中に３－１で快勝したものの２回戦では、有野中（神戸）に敗れた。

女子卓球部男子と同じく市内３位で阪神大会に進んだが、健闘空しく敗れ去り引退となった。

男子バスケット部 善戦及ばず　７／１９　於：御殿山中　多田中（川西）４７－４２小田北

満尾が密着マークされ、苦しい展開だったが、もう少しというところまでいきましたが、力尽きた。

陸上部 …阪神大会→棒高跳び　平井勇気　２㍍80　女子砲丸投げ　津曲亜美 10㍍56

１１０Ｍハードル　→県大会出場

阪神大会は、出場出来る標準記録があるため全員が出場する訳ではありませんが、１年生も含め全員が学校ごとのテントを張っています。←阪神間の陸上部のある学校が勢揃いしていますので、ベイコム陸上競技場内外は中学生陸上部員で満員。先輩や保護者、野球場や体育館も行事があるとベイコム周辺は大混雑でした。

吹奏楽部 … ２年連続中学校Ａ部門 銀賞

＜７／２６　東阪神コンクール＞
←

＜８／２５　たそがれコンサート
ＪＲ尼崎キューズモール＞　→

合唱部と共に吹奏楽部は、地域への行事に出演して貢献しています。

運動部　新チーム始動しています

←男子バケット　女子バケット→

男子卓球→

←女子卓球

体育館は、耐震で換気扇は機能するようになりましたが…蒸し暑い中での練習です。

ソフトテニス→

↓陸上

見事なハードリング

野球部　→　新チームも若草との合同チーム。８月末の市長旗大会２回戦、大成中に６－０で完勝したが、準々決勝：塚口中戦では、リードしながら自滅して新人戦シード権を逃す。２年生の奮起が必要。

←柔道部

女子２名含む１年生部員が、１年生大会・新人戦に向けて頑張っています。大いに期待しましょう！

“夏休み”　終わる…　：雑感

クラブ顧問にとっては、「夏休みに入った！」と言っても阪神大会に出場する場合や吹奏楽は、ホッとする間もなく“勝負・本番モード”を持ち続けなくてはなりません。生徒たちも同じですが、監督である顧問は、最後の大会でいい思い出を‥という気持ちで１年生から指導してきて、最後の全力投球をします。どの種目の会場を回ってみても、生徒と先生、更には保護者の思いを感じます。勝敗は勿論大事ですが、それ以上に見えないクラブ指導での盛り上がりや成果・成長を感じているのは、私だけではないでしょう。こういう日本の中学校の風景が脈々と続いていますが、OECD の調査結果で「日本の教員は、１週間の勤務時間が参加国中最長である」とのこと。平均が 38．３時間、日本が 53.9 時間とかなり長いです。これは、部活動指導と事務的業務が長いのがその一因となっているようです。そういう意味では夏休み、クラブ顧問は担当授業も事務仕事も軽減の時期ですので“生徒と向き合う時間”に集中できます。この日々の生徒との関わりで、先生自身が研修し、成長するという事が机上の研修よりも役に立つと考えます。早朝より、頑張っている生徒・教員には頭が下がります。中には、練習後に校舎内で自主勉強等させて １ 日中、面倒を見ている部もあります。ある意味、時代に逆行しているかもしれませんが、頑張る生徒や先生を制度的・経済的に援助しなければ、この文化は消滅するでしょう。時代は変わっているのに制度的・経済的なものはほとんど変わっていないと言わざるを得ません。現場の努力だけでは、じり貧になっているのが現状です。保護者・地域、そして行政の支援が必要である。